

令和元年6月29日

平成30年度 研究ブランディング事業 外部評価の結果

関西医科大学学長 友田 幸一

平成30年度の研究ブランディング活動について本事業の計画および進捗報告について外部評価を受けましたので公表いたします。外部評価者（3名）および外部研究アドバイザー（1名）による審査の結果、本事業の目的と計画およびその進捗について概ね良好な評価を戴きました。今後、コメントに示された改善点や期待に応えるべく、基礎－臨床の連携、広報活動、研究の基盤整備を本事業および大学全体として充実させていくことを検討いたします。

外部評価者

所属 大阪大学医学系研究科

氏名 熊ノ郷 淳

記入日 2019年6月4日

評価コメント

現在、生物学的製剤に代表される免疫調節薬が薬の売り上げ市場を席捲していることから分かるように、免疫疾患、アレルギー疾患の病態解明、診断・治療法開発への社会の関心は高い。このような社会的背景の下、本事業は関西医科大学の強みである難治性免疫・アレルギー疾患の克服にむけた研究を基礎・臨床の両面からブランディングとして強化し、その成果を世界発信し、地域医療に貢献しようというミッションを掲げている。ミッション遂行のための領域横断的研究連携プラットフォームの構築を確立し、目標ブランド確立に向けたコミュニケーションチャネルの確立を目標に掲げている。

平成30年度はICTを活用した領域横断的研究の構築が着実に行われ、また研究においても基礎研究、臨床研究とも着実にレベルの高い成果をあげている。またブランディング活動においても、市民公開講座、公開シンポジウムも実施してブランディングの向上に向けた積極的な活動を行っている。

外部評価者

所属 関西電力病院長
京都大学医学部名誉教授

氏名 千葉 勉

記入日 2019年6月11日

評価コメント

本事業は関西医科大学のアレルギー、免疫領域の基礎医学、臨床医学の研究者、医療従事者を結集して、アレルギー疾患や免疫疾患（特に免疫難病）の研究をすすめることを骨子としている。その結果、これらの疾患の病因病態の解明、疾患概念の確立、さらには治療法の開発をめざし、一方で、こうした研究を進める中で、優れた医師を育てるとともに、小中校生、受験生も含めて、社会に向けてその結果を公表し、啓蒙活動をおこなうことによって、同大学のブランド力（ブランディング）を促進することを目的としている。

近年アレルギー、免疫疾患は増加の一途をたどっていると同時に、従来から知られている多くの疾患の病因・病態に免疫反応が関与していることが明らかとなってきている。こうした中で本事業では、同大学が得意とする様々な免疫領域の疾患（IgG4 関連疾患、食物アレルギー、口腔・気道アレルギー、慢性 GVHD, HTLV 慢性感染など）を対象として、基礎医学と臨床医学の両面から研究を進める計画がなされており、一貫性が強く感じられ、優れた成果が期待される。

平成 30 年度においては、まずは領域横断的研究連携プラットフォームの確立が計画されたが、IgG4 関連疾患の大規模関連遺伝子検索（GWAS）、ヒト化モデルマウスを用いた HTLV1 の遺伝子組み込み解析のためのパイプラインの構築、高 IgE 血症のゲノム解析などの研究について、学内外の研究体制を整備してそのプラットフォームが構築され、研究が開始されている。その中で、IgG4 関連疾患など、すでにその成果が公表真近となっている領域もある。一方、消化器内科領域の免疫疾患においては、IgG4 関連疾患、炎症性腸疾患、自己免疫性肝疾患など、さらには小児アレルギー、サルコイドーシス、ブラウ症候群などについて、厚労省難病班の中心的存在として、診断基準や重症度分類の確立に貢献したり、疾患特異的 iPS 細胞を樹立するなど、研究連携プラットフォームの確立は順調に行われている。治療・創薬研究においては、制御性 T 細胞の増殖を介した新規免疫治療法の検討、抗アレルギー治療を目指した各種プロスタグランدين受容体拮抗薬開発のための準備（受容体の大量発現・精製系の確立）、HTLV ワクチンの効果増強に向けたアジュヴァントの応用、インテグリン阻害薬開発に向けた新規化合物合成、さらに各種ノックアウトマウス（病態モデルマウス）の作製及びそれらを用いた分子イメージング法の開発など、見るべき成果は多い。

一方ブランディング活動については、大学ホームページに本事業サイトを開設し、今後さらに充実するための方策を考案している。また学外に向かっての広報活動、成果の公表については、市民公開講座、公開シンポジウムを開催し、マスコミへの公表も行われている。

このように、研究は未だ端緒についたばかりではあるが、そのプラットフォーム構築は順調になされており、またブランディングについても、すでに活動が開始されており、今後の計画も入念になされているため、今後の発展が期待される。

外部評価者

所属 近畿大学病院 病院長

近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科 教授

氏名 東田 有智

記入日 2019年6月28日

評価コメント

関西医科大学が取り組まれている私立大学研究ブランディング事業（難治性免疫・アレルギー疾患の最先端研究拠点大学としてのブランド形成）の、平成30年度進捗状況（年次報告書）に対する外部評価者としての意見を述べる。

◎平成30年度の事業成果に対する評価

- ・領域横断的研究連携プラットフォームの構築確立について
貴学はIgG4関連疾患のゲノムワイド関連解析と症例集積（第三内科）、HTLV-1プロウイルス組み込みに関する分析（微生物学）、高IgE症候群ゲノム解析（皮膚科）、免疫細胞解析に関する人工知能開発（分子遺伝学）、炎症性疾患関連硫酸化糖鎖解析（薬理学）など、難治性免疫・アレルギー疾患の研究を遂行され、成果をあげておられる。ただしこれらは各々基礎及び臨床系講座単独での研究遂行のように見受けられる。本事業の目標である「領域をまたぐ横断的研究連携」の体制構築が本年度では達成不十分であると考ええる。
- ・免疫難病・アレルギー疾患病因・病態・診断の進捗について
貴学は種々の免疫難病・アレルギー疾患における病因・病態・診断における諸研究を遂行されているが、特に好酸球性気道炎症のテーマでは、本事業に則った学内外との連携研究体制を構築されており、適切な進捗状況にあると考ええる。
- ・治療・創薬研究、病態モデル動物解析の進捗について
これらの研究に対しても貴学は諸研究を遂行され、種々の成果をあげておられるが、さらなる、領域をまたぐ横断的研究連携構築を期待する。
- ・ブランディング活動について
ウェブサイトを立ち上げられたとともに、講演会開催やメディアを介した情報発信を行い、積極的にブランディング活動されていると考ええる。

◎総評

各基礎及び臨床系講座で対象疾患に対する基礎研究の遂行により、種々の成果を上げているが、領域をまたぐ横断的研究連携体制をさらに向上されるよう期待する。

外部評価アドバイザー

所属 大阪大学 IFREC

氏名 黒崎 知博

記入日 2019年6月26日

評価コメント

国の財政が厳しい中、ブランディング事業が採択され非常に頑張っている。

特に本事業と直接関係はないが、理事長／学長主導で基礎講座再編が現実的に実施されているところは高く評価できる。

又、この事業を活用して、ボトムアップの研究を促進し、将来の芽を育てていく方向も大変良い。

やはり関西医科大学は病院を有し、豊富な **Clinical Sample** を有するので、是非とも **Human Immunology** を充実してもらいたい。その点では「研究医枠」の取得は高く評価できるし、是非とも将来の素晴らしい人材へと皆でそだてて欲しい。

ただ、**Human Immunology** を実際行うにあたっては、**CyTOF**、**Genome Analysis** 等高額の機器が必要であり、今までの取り組みに加えて、この事業をうまく活用してますますの充実を計ってもらいたい。